

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第2回 議事概要

日時	2023年8月23日(水) 13:30~18:00
場所	下関市市民活動センター大会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：泉、吉田、木村隼、有賀、木村大、清原、鈴木、安本 専門家：長町、榎本、大橋(オンライン)、井上 地域事業者：郷田、阿部、湊、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 前田、平山、村上、上野

(※市役所参加部局課)

産業振興部	産業振興課
農林水産振興部	市場流通課
観光スポーツ文化部	観光政策課 観光施設課
建設部	道路河川建設課
都市整備部	都市計画課 交通対策課
港湾局	経営課 施設課

1. 開会

- 北島副市長及び泉委員より開会挨拶

2. 情報発信の進捗状況について

鈴木委員、安本委員より作成中のロゴ及びHPについて説明の上、議論

(ロゴデザインについて)

- 制作経緯としてはまずA案から考え始めた。その後ReBRONを強調していくという点もありC案に行き着いた。マークの各要素も様々なものに見えるようにデフォルメして描いている。
- A案について、文言が積まれていくような使い方も、みんなの思いが積まれていくような印象でよいのではないか。文字モニュメント等でも使い勝手が良いかもしれない。
- シンボルはやはり海峡なので、そこを前面に出したC案が良いのではないか。
- B案は少し印象が弱く、また、C案についてもどこかで見た印象がぬぐえない。

→全体の意見を確認し、A案をベースに検討することで決定。

一方で、以下の点を工夫するなどブラッシュアップしていく。

- ・縦置きで利用する場合のデザイン
- ・読みやすくする観点で英語表記とカタカナ表記のバランス
- ・船が波を切って進んでいく様を強調するデザイン

(ホームページについて)

- 仮のデザイン構成を全体で確認。市長の定例会見で広報できるよう、準備を進める。

3. タテミチの検討進捗状況について

熊谷委員及び長町委員よりデザイン案を提示の上、議論

- 素晴らしいストリートになると期待。通りに名称・愛称をつけていけると良いのではないかな。
- 運用に関して、カラー演出等は可能かな？
→色は変わらない。エネルギーコントロールの観点から調光機能は付加できると良いと考えている。
- 南部町8号線は既成市街地とあるかぼーとを結ぶハブになりうる場所だが、あるかぼーとに渡れるようになっていない。これを渡るように出来ないかな。
→もう一本西側でも良いのではないかな。
- 東側に移すのは交差点距離的に難しい。西側に移す可能性はあり得るのではないかな。
- ただし、国道を渡るだけなら良いが港湾道路も渡らないと行けない。
→あるかぼーと側の使い方が決まり次第、公安などとも協議していくことは可能だと思う。
- 6号線の方はどうか。交差点距離としては難しいと思う
- 6号線に関しては樹木と駐車場の調整で視線は抜けていくと思う。分庁舎の樹木のライトアップと合わせれば視線が決まるので、検討できればよい。

4. A地区事業の進捗状況について

港湾局及び木村委員より進捗状況及び今後の進め方に関して説明の上、議論

- 次回の推進会議までに、対応案くらいまでは提案できるイメージで検討を進めたい。
- 事業者が参加できなかった事情があるとすれば、そこをしっかりと踏まえて検討を行わないといけない。事業性・投資回収可能性も含めて。
- ここにスーパーや普通のショッピングセンターができれば良いと言う話ではないので、何があったら良いか、それをどうやってバックアップ出来るかがポイント。
→今後、ヒアリングや事業仮説の検討を通じて検証していく。
- 駅周辺にも商業集積がある中でどこまでの商業施設が必要か、検討が必要
- パブリックな緑地を使いこなす人たちが活動する機能があることが重要。それに合致した事業主体は誰か、という視点も重要。芝生を失ってしまうと市民活動などを行なっていく場がなくなってしまう
→まさにゼロベースで全体感をしっかり議論していくことが重要

5. 駐車場に関する検討方針について

榎本委員より駐車場の検討方針について説明の上、議論

(駐車場マネジメント)

- コロナ前後で過ごし方も変化してきた。カモンワープでは、コロナ前は 65%が 1 時間以内の利用だったのに対し、コロナ以降は 55%まで減ってきた。新規のお客さんが増えてきているのかもしれない
- どういう滞在をしてもらうかに応じて、駐車場の対応についても作戦を立てていく必要がある。拠点的に使って欲しいところは長時間が安くなるなど。現状は、駐車場を短時間で転々すると無料にもなってしまう。
- 本来は周遊して欲しいが、滞在が長くなると渋滞長が長くなるというジレンマはある。極端に言えば、中心部は、休日はマイカー入れなくて、駅前に停めてもらってシャトルバスなどにすれば駅前にも観光客がいてくれるなども考えられる
- 市場関係者だけは安く対応し、観光客からは市場の駐車場が一番高い方が良いと思う。
- 今後、料金を上げるタイミングがあれば、エリアマネジメントに向けた資金が入るように出来ると良い

(渋滞対策)

- 渋滞に関しては、観光客は状況が分からず、まずは海峡まで入ってしまうので、告知・情報提供も含めた課題。また、週末のアルバイトなどへの対応は必要。
- 海響館で調査をしたら、施設のことすら調べずに来ている人 32%程度存在した。観光客に知らせるのはなかなか難しい課題。また、臨時駐車場から 2 分の距離ですら、「遠い」というクレームもあった、動線やモビリティも含めての検討が必要。
- インターから降りて唐戸市場まで長時間かかってしまうケースもある。渋滞が激しいので団体旅行のルートが組めないという声も聞く。
- 団体バスだけでも逃げられるようにする工夫や、門司港から船で、というルート提案等も必要。

(全体の検討視点)

- 渋滞については、もちろん課題ではあるが、実際には年間 40 日の話という側面もある。一方で、今後のマスタープラン進展や A 地区事業の内容に関わる話は、特異日の話だけではないテーマ。2 つを整理しながら検討する必要がある。

6. 目指すシーンのピックアップとエリアごとの整理

木村隼委員より、目指すシーン・エリアごとの整理について説明

(水産漁業レクリエーションゾーン)

- 唐戸市場は基本的には魚市場。仲卸業務をしっかり維持し、市民の台所として市場業務をしっかりやって欲しいという要請もある。
- 「袋競り」というここでしかやっていない競りもある。これはしっかり残したい。
- 一方で、金土日については馬関街をはじめとする観光客への提供とすることや、海の駅的なものとカモンワープと連携した食体験という形とすることについても、以前から議論があるところ。
- 仮に施設が日常的に市民も観光客も来て食べれる場所になるとした時に、何が一番理想の姿になるのか？
→唐戸市場で魚を買って、カモンワープで調理してもらって食べられるというシステムが出来ないかと思っている。長期的

に魚の取扱量等は落ちており、卸だけで成り立たなくなってきた側面もある。担い手も高齢化するなど、市場機能・観光客対応、すべてに対応するのも難しくなる。

- 市民の利用はどのくらいあるか。

→ほとんどなくなってきた。特に土日はなかなか市民が寄ることはない。競りの時間との兼ね合いもあり、市民が買いやすい時間まで売ることも難しくなっている。

(仕掛けの柱)

- 仕掛け自体は良いと思うが、その前提として、高校生のデートの場、とか誰に来てどう楽しんでもらうか、というところを加えると良い。
- 今は市民が行く場所になっていない。海峡の景色が売りと言っても人は来ない。まずは市民がもう一度行く場所にしないといけない。そのための機能が何かということを考えないといけない。
- 家族が来ないのは何故なのかカップルが来ないのは何故なのかというところを考えないといけない。
- たくさんのポテンシャルがあるのに活かされていない、発信されていない。分かりやすい価値がなかなか無い。
- 日常をつくるのに必要なのは余白の使い方。場所の信頼度・信用度とか呼んだりするが、いつ来ても誰かと会えるとか、そうしたことがあると日常的に足を運ぶ。このためには使いこなしていくためのデザインと仕組みが必要。
- 下関最大の空間の魅力は船溜まり。陸と海との接点だった場所。流れの早い海峡だから生まれてきた発明品。
- コンテンツだけだと競合が出てきてしまうので、ここにしかない空間の価値がしっかりつたわることと両方必要。

7. 汐入池の基本調査に向けた港湾緑地の在り方検討

熊谷委員より緑地の検討に関して説明

- てんしばのような使い方理想的だと思う。水族館は結構パワーを使うので、その横に余白があると良いと思う。
- 市民の方にどう足を向けてもらうか、どう愛着を持ってもらうかが大事
- 菅原神社からの眺めを地域住民は大事にしている。この抜けを一番重要視してやっていかないといけない
- 「質の高い緑地とは何か」を共有していかないといけないと感じている。汐入池は使い勝手の悪さもあるので、今後また話をしていきたい

以上